

## 外国メディア賞の評価につきまして

全ての新聞に、ターゲットとなる読者を惹きつける興味深い記事がありました。その中でも The Kugayama Times は日本のメディアのありきたりなものではない興味深い考え方などが含まれている記事を提供していました。

海外の問題が日本のメディアにより取材、報道される時は、たまに表面的な理解でしかなく、日本での一面からの視点だけになってしまっていることがあります。それは、聞きなれないコンセプトを日本人読者に分かりやすく説明しようとしていることも理由のひとつですが、問題の本質を全ての側面から理解できるほどの十分なリサーチができていないことも理由のひとつです。

また、人種差別や性差別など、他国で起きている様々な差別の記事は日本でもよく扱われていますが、日本でも同様な問題があることや、すべての側面からの意見を伝えることなどは比較的に少ないです。「アメリカの人種差別を見て!」と言い、日本では差別が存在しないかのように、日本で起きている差別と比べることもあまりしないなど、まるで他人事のように伝えるメディアや人が多いです。

だからこそ、私は The Kugayama Times に感銘を受けました。一つの記事では性の多様性問題をテーマにして、ライターたちがアンケートを行い、学校の生徒の意見を集めて調査を行いました。そのうえ、ライター達が性の在り方自体について問いましたが、読者にこのように考えろ、という上の目線からの立場ではなく、データを発表し、最終的な判断を読者に任せました。

また、他国との政治関係が他文化へ解釈にどのように影響するかという記事もすばらしかったです。その影響に加え、日韓の政治情勢の関係悪化や、互いの文化への評価などの課題にも触れています。

ただ、最も印象的なのは、日本人の意見だけではなく、韓国人・韓国系日本人の観点も取り入れ、両方の視点を平等に示しているところです。

他の新聞もいい記事がありました。

The Seifu Times の記事は、日本人父・タイ人母の子として日本で育てられたときに直面した問題について理解を深めることができました。

The Daily Nisho のコンテナハウスの記事はとてもよく調べられていました。

NGK 52 Shinbun は、スタジオジブリについてたくさん教えられました。

また、The Nissaku Times は、学校やその地域への面白い紹介を制作できました。

しかしながら、私にとって最も外国メディア賞がふさわしいと思う新聞は、平等な表現を通して、お互いの理解を發表する記事がある、異なる視点を積極的に探することで自分自身のアイディアに挑戦するライターがいる新聞になります。その面で、今回の外国メディア賞を The Kugayama Times にしたいと思います。

英語や一般的な異文化コミュニケーションについてアドバイス 2 点を全チームにさせていただきます。差し上げたいと思います。

- ① 新しい言葉を習う主な理由はコミュニケーションです。なので、完璧な文法や幅広い語彙の知識を持つことが必要だというわけでもありません。理解させることができれば、理解できれば十分です。ただ、文脈が大切ですので、原文とタイトルを区別できるフォントサイズ、英語圏で使われている句読点、スペル、主語・動詞の適切さなど、そういうところを気を付けないと自分の英語が分かりづらくなり、英語圏の人が理解できない可能性があります。
- ② 他の国について強く断言をする前に、その内容が正しいかどうかの再確認が必要です。いくつかの新聞の記事の中には事実と異なっている、ステレオタイプだとされる表現・情報がありました。生徒たちは海外の経験が浅いので日本では許されるレベルですが、同じ発言を海外で言ったら、侮辱と受け取られる可能性が高いです。多文化の方々とコミュニケーションをとる前に、自分の仮定の正確さを再確認することが必要です。

もう分かっている、と考えないこと。疑問を持つこと、いつも再確認すること。

新しい学びはどこにでも見つけられます。

ワット ジェイムズ